

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4292400019
法人名	医療法人 伴帥会
事業所名	グループホーム 椿高野
訪問調査日	平成 20 年 10 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 26 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4292400019		
法人名	医療法人 伴帥会		
事業所名	グループホーム 椿高野		
所在地 (電話番号)	長崎県雲仙市愛野町乙2314-5 (電話) 0957-36-3558		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造 + 軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人伴帥会 愛野記念病院 朝永歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに位置するとは思えないような静けさのなかにあり、明るい光と森の木々に囲まれたホームでは、地域密着型サービスとして、家族や友人等人と人との関わり、地域との関わりを大切に、ゆっくりとした時間が過ぎている。また、近隣の小学校の行事や、保育園のお遊戯会・運動会等地域の行事への参加が多くみられるほか、地域の方々がホームの行事に来てくれるなど地域の方と積極的に交流している。

地域の母体の医療法人との協力体制がしっかり取れており、特に併設の老人保健施設とは法人内の様々な研修の受講、緊急時の協力がなされている。また、利用者一人ひとりの心身の状況を考慮し、何事も利用者と職員と一緒に取り組みながら日常の関わりの中での「気付き」を大切に、一人ひとりの状態が把握されて支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を受け、改善策をまず職員一人ひとりが考えた上で管理者を中心として職員皆で話し合い、評価を活かして改善に向けた取り組みを行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員一人ひとりが評価の意義を理解しており、外部評価を受けるにあたってまず職員一人ひとりが自己評価を行い、その後管理者を中心に皆で話し合い「ちょっとした気付き」を大切に利用者の目線での話し合いを行い自己評価に取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は行政関係者、利用者家族代表、老人会会長、管理者、介護支援専門員、母体法人事務長で構成され、2ヶ月に1回開催されており、会議では現状や状況の報告、外部評価の結果報告等の話し合いがなされておりサービスの向上に活かされている。時には昼間に食事を取りながら、実態を見てもらいながら会議を実施している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には月に一度、利用者一人ひとりのホームでの暮らしぶりや写真をつけた便りがそれぞれに送付されている。また、緊急時にはその都度連絡され、健康状態や金銭的なものは日常的に電話連絡がなされている。日頃から何でも気軽に相談しやすい雰囲気づくりに配慮しており、気になることや意見にも迅速に対応し、改善できる体制が整えられている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の小学校の行事や、保育園のお遊戯会・運動会、地域の夏祭りや文化祭など地域の行事へ利用者とともに多く参加しており、地域の方々との関わりを大切にしている。また、逆に地域の方々がホームの行事に来てくれるなど地域の方と積極的に交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と利用者との関わりはもちろんのこと、家族や友人等人と人との関わり、地域との関わりを途切れることのないように大切に、また日々をその人らしく暮らして行けるよう独自の理念をつくりあげ、サービスの向上に日々努力し、支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日常的に理念について話をしており、玄関・掲示板・事務室とホーム独自の理念が掲げてあり、その理念の下、「ちょっとした気付き」を大切に、職員皆でサービスの向上に取り組んでいる。また、人と人との関わりや地域とのつながりを大切に利用者の友人へ手紙を書いたり電話をしたりなどといった支援にも取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の行事や、保育園のお遊戯会・運動会など地域の行事へ利用者とともに積極的に参加している。また、地域の方々もホームの行事に来てくれており、地域の方々とのふれあいを大切に、積極的に交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価の意義を十分に理解し、まず職員一人ひとりで自己評価を行い、その後管理者を中心に皆で話し合い「ちょっとした気付き」を大切に利用者の目線での話し合いを行い職員全員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果をもとに、まず職員一人ひとりが考えた上で職員皆で話し合い、評価を活かして改善に向けた取り組みが行われている。	○	職員一人ひとりが評価の意義を十分に理解し、サービスの向上に積極的に取り組まれていることが窺えたので、今後もさらなる向上を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政関係者、利用者家族代表、老人会会長、管理者、介護支援専門員、母体法人事務長で構成され、2ヶ月に1回開催されており、会議では現状や状況の報告、外部評価の結果報告等の話し合いがなされておりサービスの向上に活かされている。時には実態を見てもらうため、昼間に食事を取りながら会議を実施している。	○	運営推進会議を十分に活用し、昼間に食事を取りながら会議を実施する等、普段の生活の様子を見てもらうことを大切にされているので、今後もさらに関係者と積極的に連携を図りながらサービスの向上に活かされるよう期待したい。

長崎県 グループホーム椿高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口に出向き、事業所の実情やケアサービスの取り組み等について話しており、情報交換を行いながら、地域密着型サービスの向上に向けて連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、利用者一人ひとりに応じたホームでの暮らしぶりや写真をつけた便りをそれぞれの家族に送付し、状況を報告しているほか、健康状態や金銭管理に係ることは日常的に電話連絡をしている。また、緊急時にはその都度連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には必ず話をするようにしており、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。過去には利用者の居室の「床が汚れている」「トイレの臭いが気になる」等の意見や苦情が挙げられており、ちょっとしたことでも言いやすい雰囲気づくりや、すぐに改善できる体制づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、馴染みの職員によるケアを心がけており、グループホームの職員の異動はここ数年行われていないが、やむを得ず異動や離職があった場合には説明を行い、利用者や家族のダメージを最小限に抑えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である医療法人と合同で行われている研修に毎回参加しているほか、施設外の研修にもできるだけ多くの職員が参加できるよう努めている。また、研修受講後は報告会を開き、研修内容を職員で共有できるようにしている。	○	多くの職員が研修に参加できるよう配慮しており、研修内容が共有できる工夫もしているので、今後もさらに研修への参加、研修内容の共有に努めるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者が中心となって立ち上げた連絡協議会に加入し、他の事業所との意見・情報交換や勉強会等を行い、事業者間のネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの説明を行ったり、繰り返し見学に来ていただいたりしながら、本人の意思を尊重し、納得された上で安心して利用できるよう、タイミングを見て利用を開始してもらっている。また、入居後はホームに早く慣れてもらうよう家族と連携を密にとりながら支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、人生の先輩であるという考えのもと、教えてもらうという姿勢で支援を行っており、利用者の心身の状態に合わせて料理や後片付け、野菜づくり等、何事にも一緒に取り組み、利用者とともに過ごし学び支え、サービスの向上に取り組んでいる。	○	一緒に過ごす中で、喜怒哀楽を共にし、人生の先輩としての尊敬の念で利用者として接し、学び支えあう姿勢が窺えたので、今後もさらなるサービスの向上に取り組まれることを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の心身の状態に合わせて声かけや何事にも一緒に取り組むことで、さりげなく一人ひとりの意向や暮らしぶりを把握し、日常の支援に活かすように努めている。	○	一緒に過ごしながさりげなく一人ひとりの意向や暮らしぶりを把握されているので、今後もさらに日常の支援に活かされるよう期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるために、定期的に家族と話し合いを行い、職員が協力し合いながら日常の関わりの中での「気付き」を大切にアセスメントを行い、利用者本人のできることを把握した上で計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に家族と話し合いを行い、現時点での本人、家族の要望を取り入れながら職員が協力し合い、日常の関わりの中での「気付き」を大切にアセスメントを行い、利用者本人のできることを把握して見直しを行っている。また、定期的な見直しだけでなく、状態変化や家族、利用者の要望等に応じた見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	島鉄の路線が廃止になるというニュースを聞き、「寂しかね」と言われた利用者の言葉で最後の島鉄に乗ろうと外出したところ、この道は高校時代に通っていた道、と懐かしがられ、涙を流して喜ばれたことがあった。このように、一人ひとりの意思を尊重し、散歩や買い物を始め、墓参りなどの外出を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診し、その都度家族に報告をされている。また、必要に応じて協力医の診療も受けられるよう体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期の方針について説明し、納得できるように話し合いを行っている。利用者が終末期になった時どのように関わっていくかについては、家族、本人、主治医との話し合いを行い、最終的に家族の希望に副えるような対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに尊敬の念で接し、それぞれに応じた日常的な言葉かけや対応に配慮している。記録や便りに関しても十分に気を付けて取り組んでいる。便りに関しては、利用者一人ひとり個別に作成し、それぞれに送付している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態に配慮し、利用者のペースに合わせた支援を行っている。料理や後片付け、野菜づくり等何事にも一緒に取り組み、関わることで一人ひとりの意向や暮らしぶりを把握し日常の支援に活かすよう努めている。	○	利用者のペースを大切に、一人ひとりの意向を把握しながら日々のその人らしい生活を大切にされているので、今後もさらに、日常の支援に活かされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のチラシを見ながら献立を話し合っ決めて、一緒に食材の買い出しに行っている。利用者の状態や性格により利用者同士で決まった当番があり、職員と一緒に調理や盛り付けを行ったり、後片付けも職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、利用者の希望や要望に合わせていつでも自由に入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとを持つよう、利用者の心身の状態に合わせて一緒に取り組み、関わることで一人ひとりの意向や暮らしぶりを把握し日常の支援に活かすよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気に触れ、気分転換を図ったり季節を肌で感じてもらえるよう、利用者の気分や希望に合わせて、できるだけ外出できるように支援している。日常的に庭の散歩や買い物、外食に出かけており、利用者の希望に副った墓参り等の支援もなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に外に出られるよう日中は鍵をかけることなく、外に行きたい方は職員が付き添い外出したり、利用者に合わせて声かけをしたり、さりげなく見守る等安全面に配慮しながら支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の指導により利用者も一緒に訓練を行っており、老人会会長等地域の方にも参加してもらっている。また、同一法人で隣接する老人保健施設と合同での避難訓練も行い、関係施設や地域との協力体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は毎日チェックし、必要に応じて同法人の栄養士に相談し、アドバイスを受けている。また、食事の際は職員も一緒に食べながら、利用者の状態に合わせてさりげなく介助している。	○	前回の評価を受け、栄養士にアドバイスを受けられ、積極的に取り組まれているので、今後もさらに工夫していくことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は明るく、ゆったりとしており、観葉植物や季節の花を飾ったり、畳の間があたりと、利用者にとって不快な音や光を感じさせることなく、利用者一人ひとりが思い思いに心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具等の私物を自由に持ち込まれ、また、家族も自由に写真やプレゼント等様々なものを持ち込まれており、利用者の意向に合わせて飾りつけがされており、それぞれの居室が「自分の部屋」であると感じられる配慮をしていた。		